



I'm**POSSIBLE**

LEARN. ENGAGE. INCLUDE.

1-3

[公平について考えてみよう！]

教師用 授業ガイド

(小学生版)

- 授業の展開にそって、【指導・声かけ例】【+アルファ情報】を掲載しています。
- 【+アルファ情報】は、すべて伝えなければならない情報ではありません。興味・関心を引き出すために、クラスのそれまでの学習経験なども踏まえてご活用ください。
- 一方的に教師が話すのではなく、児童の既習事項などと絡め、児童に考えさせるような展開にしましょう。

(教材の内容は、2022年4月1日現在の情報をもとにしています。)

I'mPOSSIBLE ①-3 公平について考えてみよう！

テーマ1 授業3

公平について考えてみよう！

国際パラリンピック委員会公認教材 1

【指導・声かけ例】

- ・「今日は公平について学習する」といった、めあてを先に示し、「公平」とは何かを児童に尋ねるという導入をしてもよい。「公平」で難しければ「不公平」を考えさせると考えやすい。

I'mPOSSIBLE ①-3 公平について考えてみよう！

原市 紘奈さん



げんざい
現在は、
車いすを使用している。
小学生のころは、
歩くことはできたが、
大きく肩がゆれ、
うまく走ることが
できなかった。

国際パラリンピック委員会公認教材 2

【指導・声かけ例】

- ・原市さんを紹介する。

＋アルファ情報

- ・茨城県出身。
- ・大学4年生の時から本格的に始めた車いすバスケットボールに夢中。
- ・ほぼ毎日仕事の後練習をしている。
- ・職場も練習も車で通っている。
- ・2017年4月から東京で社会人生活を送っている。


I'mPOSSIBLE ①-3 公平について考えてみよう！

あなたは どう思う？

小学校3年生

ドッジボール大会の時の話

「**紘奈ちゃんには当てない**
という**特別ルール**を作ろう
という**提案**があり、
クラスのほとんどの子が**賛成**した。」



原市 紘奈さん

原市さんは、どう思ったかな？

国際パラリンピック委員会公認教材 3

【指導・声かけ例】

- ・ドッジボールの競技の特徴を思い起こさせ、状況が理解できるようにする。

＋アルファ情報

- ・小学生の時はまだ歩けていた。足にギプスのようなものをつけることもあった。何度か手術などもしたが、少しずつ車いすも使い始め、高校生くらいのときに車いすの生活になった。
- ・小学校のときは勢いで結構歩けていたが、止まるのは難しかった。
- ・ドッジボールをするときは車いすは使用せず立って行っていた。



原市さんの気持ち

小学校3年生
ドッジボール大会の時の話

原市 紘奈さん

「^{ひろな}紘奈ちゃんには当てない」という特別ルールを作ろうという提案があり、^{さんせい}クラスのほとんどの子が賛成した。

ええっ、困ったなあ。当てられないなんて、ドッジボールじゃないよ。この後どうなったと思う？

国際バウンディング委員会公認教材

4

【指導・声かけ例】

- ・原市さんの気持ちと、その後どうだったのかという話を紹介する。

+アルファ情報

- ・「掃除のときに、机は運ばなくてよい」など、自然と「ひろなちゃんルール」を作ってくれるクラスだった。
- ・紘奈さんはスポーツが大好きで、球を投げるのは得意だったから、ドッジボールのときも、ボールをパスされたら、当てるのは得意だった。



原市さんの気持ち



原市 紘奈さん

ある男の子が、「それじゃあ、^{ひろな}紘奈ちゃんは、つまらないと思います。みんなといっしょにやった方が、楽しいと思います。」と言ってくれた。

思い切って、「みんなと同じようにやらせてください」と伝えることができた。みんなと同じルールでやったドッジボールは、本当に楽しかった。

国際バウンディング委員会公認教材

5

【指導・声かけ例】

- ・クラスのほとんどの子が賛成した特別ルールの提案も、ある男の子の提案も、原市さんを思っでの発言であることに気づかせる。



どのようなルールだと
みんなが楽しく競い合えるかな？

2年1組のしょうたさんは、
車いすを使っています。
運動会で2年2組と玉入れの
勝負をします。
どのようなルールだと、
みんなが楽しく競い合えるかな？



しょうたさんが玉入れをする時、難しいことは…？

【指導・声かけ例】

- ・しょうたさんのことを架空の話と感じさせないように工夫する。
- ・グループワークに入る前に、必ずワークシートに自分の意見を記入させる。



しょうたさんが玉入れで難しいこと

- 地面に落ちた玉を拾うこと
- すばやく横に動くこと
- しばふや砂利の上を動くこと



しょうたさん

【指導・声かけ例】

- ・進め方は、クラスの状況に応じて以下の2案のどちらかで進めるとよい。
 - ① 「玉入れで難しいこと」を考えさせてから、ルールを考えさせる。こうすると、ルールについて一人ひとりが自分の考えを持てるようになる。
 - ② 「玉入れで難しいこと」はここでは考えさせず、スライド9のしょうたさんの意見を聞く前に示すこともできる。こうすると相手の身になって考えるということが強調される。
- ・スライド7は最初から見せるのではなく、先に児童に考えさせたい。そのとき、「座って取るのは難しい」などの意見が出たら、児童に実際に座って取る動きをさせるなどして、実感を持たせる。
- ・児童から出てきた意見で、このスライドにない良いものがあったら、取り上げる。
例：みんな必死になるので、車いすにぶつかってしまう危険性がある など

？ どのルールだと楽しく競い合えるかな？

- あ 全員いすに座って、玉入れをする。
- い かごの近くは、しょうたさんしか近づいてはいけない。
- う しょうたさんに、玉をわたす係をつける。
- え 2組の一人がキャスターつきのいすに座る。
- お しょうたさんの玉は、先にわたしておく。
- か しょうたさんの玉だけ、得点を倍にする。

【指導・声かけ例】

- ・個別にアイデアを考えるのが難しい場合は、スライド8をしょうたさんの学校の5年生が考えたルールなどという設定にし、提示しながら考えさせる。
⇒「どんなルールがあれば、楽しく競えるかな？」
- ・案がうまく出せたときには、しょうたさんのことをよく考えて様々な案を出せたことをほめる。
⇒「すごいね。君たちもよく考えたね。まるでしょうたさんのことをよく知っているみたいだね！」
- ・しょうたさんに有利すぎるようなルールばかりが出た場合は、違う方法も考えさせる。
⇒「その方法で、相手チームは納得するかなあ。2年2組の子は、ずるいと言わないかな？」
- ・相手の組も納得するということは、忘れがちになるので、繰り返し伝える。
- ・グループワークをしない場合は、クラス全員に挙手させ、順に理由を聞いていくなど、一人ひとりが自分の意見を持てるようにする。
- ・ルールを意識するときに重要なキーワードが出たら、板書する。
「平等」(条件が一緒)
「大変なことをサポートする」
「危険は×」

目 しょうたさんに聞きました



玉を投げるのは得意だけど、拾うのは難しいです。先に玉をもらえると嬉しいです。2組の人とも相談したいです。

【指導・声かけ例】

- ・しょうたさんはスポーツが苦手なわけではなく、投げるのは得意である。障害のある人はスポーツができない・苦手という固定観念があるようであれば、これをきっかけに気づかせるとよい。
- ・しょうたさんの気持ちだけを尊重するのではなく、2組の人も楽しめるようにしていることは強調する。
- ・ルールを決める際に、配慮しているつもりが、本人のできる・できないを勝手に決めつけてしまっていたり、楽しみを奪っていたりするかもしれないことも想像できるとよい。
- ・今回はこのようなルールになったが、自分一人だけ違うルールを適用されたときにどう感じるか、自分だったらどうか、という視点でも考えられるとよい。
⇒児童からの声の例：
「自分がやりやすいルールになってうれしい」
「自分だけ違うルールだとちょっと恥ずかしい」

目 2組と決めたルール

しょうたさんに、玉をわたす係(上級生)をつける。

【指導・声かけ例】

- ・しょうたさんに意見を聞いた上で、2組には、「しょうたさんの玉は先にわたしておく」という提案をした。しかし、「それは助けすぎである」「玉がなくなったらどうするのか」などの意見も出て、最終的にこのルールになった、つまり、話し合っただけで決めたことを伝える。

I'mPOSSIBLE ①1-3 公平について考えてみよう！

❓ どうやってルールを決めたらよいか？

「その子の気持ちになって、考える」
「自分だったらどうしたいか、考える」
「その子に聞いてみる」

国際パラリンピック委員会公認教材 11

【指導・声かけ例】

- ・これが絶対というものは無い。本人やまわりの人の意見を聞きながら、話し合いながらよりよいことを考えていくことが大切。
- ・不利な立場に配慮するあまり、逆に他の人が不利にならないように考えることも必要である。

I'mPOSSIBLE ①1-3 公平について考えてみよう！

📖 ふりかえり

今日、心に残ったことを書こう！

 はらいちひろな 原市純奈さん
 しょうたさん

国際パラリンピック委員会公認教材 12

I'mPOSSIBLE ①1-3 公平について考えてみよう！

📖 パラリンピックの価値

公平

一人ひとりのちがいを理解して工夫すれば、だれもが自分のベストをつくすチャンスがあると気づかせる力。

国際パラリンピック委員会公認教材 13

【指導・声かけ例】

〈展開①〉

- ・「心に残ったこと」を2～3人に発表させた後、子どもの発表を受ける形で、スライド13を示し、今日の授業から「公平」を強く感じることを確認する。
 - ・パラリンピックには、パラリンピアンが示してくれる価値が他にもあり、それはパラリンピックの価値として重視されていること伝える。
 - ・残り3つの価値も簡単に紹介する。
- ⇒「今日の授業では、どうしたら公平にできるかを考えたよね。実はこれはパラリンピックの価値と言われているものの1つなんだ。」

〈展開②〉

- ・「心に残ったこと」を2～3人に発表させる。
 - ・スライド13は使わずに、スライド14でパラリンピックの価値を説明する。
 - ・今日の授業で考えたことは4つのうちの何かを確認する。
- ⇒「今日は公平について学習したけれど、これはパラリンピックの価値の1つなんだ。パラリンピアンが示してくれる（体現している）価値として、この4つを重視しているんだよ。」

・最後のまとめとして、以下のようなメッセージでしめることができる。

- ①公平という考えを意識し、工夫をしたり、みんなで考えを出し合ったりすることで、スポーツに限らずみんなと一緒に活動できるようになってほしい。
- ②日常生活の中で「不公平」なことがあったときにどう「公平」にするかを意識してほしい。
- ③障害がある人も様々な考えを持っている。勝手に判断せずに、一人ひとりの違いを尊重しながら一緒に活動できるようになってほしい。 など

I'mPOSSIBLE ①1-2 公平について考えてみよう！

📖 パラリンピックの価値

- 勇気
つらいことやできないかもしれないと思うことから、にげ出さず立ち向かう力。
- 強い意志
あきらめず、目標に向かって努力し続けられる力。
- 公平
一人ひとりのちがいを理解して工夫すれば、だれもが自分のベストをつくすチャンスがあると気づかせる力。
- インスピレーション
強く気持ちをゆさぶられ、自分も何かに挑戦してみたいと感じさせる力。

国際パラリンピック委員会公認教材 14